

2025年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）



2025年4月14日

東

上場会社名 株式会社サイエンスアーツ

上場取引所

コード番号 4412

URL <https://science-arts.com>

代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 平岡 秀一

問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 松田 拓也（TEL）03(6825)0619

半期報告書提出予定日 2025年4月14日 配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年8月期第2四半期（中間期）の業績（2024年9月1日～2025年2月28日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期中間期	729	30.3	32	—	17	—	14	—
2024年8月期中間期	559	72.1	△15	—	△16	—	△16	—
	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年8月期中間期	1.97		—					
2024年8月期中間期	△2.44		—					

（注）1. 2024年8月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

2. 2025年8月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期中間期	1,858	1,289	69.4
2024年8月期	953	476	50.0

（参考）自己資本 2025年8月期中間期 1,289百万円 2024年8月期 476百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年8月期	—	0.00			
2025年8月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年8月期の業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,566	32.2	44	—	28	—	20	—	2.56

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日（2025年4月14日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年8月期中間期	8,219,500株	2024年8月期	6,716,400株
② 期末自己株式数	2025年8月期中間期	133,088株	2024年8月期	132,800株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年8月期中間期	7,576,035株	2024年8月期中間期	6,583,600株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢・所得環境が改善するなか、各種政策の効果もあり緩やかな回復が見られましたが、為替相場の円安等による物価上昇、米国新政権の動向、不安定な国際情勢等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社が事業展開する国内のソフトウェア市場におきましては、働き方改革や人手不足の解消などの課題解決に向けコミュニケーションの促進や業務の自動化・効率化につながるソフトウェアの導入や生成AIの活用による機能強化や高付加価値化が進み、2024年度は2兆8,072億円※1が見込まれております。また、フロントラインワーカーが働く最前線の現場においては、法人向けモバイル通信端末市場の拡大、AIや画像認識等の精度向上、ウェアラブルカメラ等ハードウェアの開発と導入コストの低減、5Gの普及による映像等大容量データの活用など、様々な分野のイノベーションの発展に伴い、さらなるDX化の拡大が期待されます。当社の提供するサービス「Buddycom」の国内における潜在市場規模については、約1,900億円と推計※2しております。当社は「フロントラインワーカーに未来のDXを提供し、明るく笑顔で働ける社会の力となる」ことをミッションに掲げ、「フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム」の新たな市場の創出を図りながら、開発・販売を行ってまいります。

このような経営環境のもと、当社の主力サービスであるBuddycomの開発及び販売に注力いたしました。売上高は順調に推移した一方、Buddycomの開発及び販売強化のための人員増加による採用費及び人件費の増加、知名度向上のための広告宣伝費の増加等により、販売費及び一般管理費も増加いたしました。

以上の結果、当中間会計期間における売上高は729,154千円（前年同期比30.3%増）、営業利益は32,470千円（前年同期営業損失15,437千円）、経常利益は17,439千円（前年同期経常損失16,988千円）、中間純利益は14,947千円（前年同期中間純損失16,031千円）となりました。

※1 株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2024年版」（2024年8月）

※2 国内における全ての潜在顧客、フロントラインワーカーに導入された場合の、顧客による年間支出総金額。

（日本のフロントラインワーカー人口（2024年4月の総務省統計局「2023年度 労働力調査年報」より当社推計）×ID当たりの平均年間課金額）

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

（Buddycom事業）

Buddycom事業におきましては、マーケティング強化による知名度の向上、営業人員の増強、代理店営業力の強化、SMB※1向けの販売強化等により契約社数は増加し、当中間会計期間末の契約社数は1,346社（前事業年度末1,077社）となり、ARR※2は876,146千円（前事業年度末739,058千円）となりました。以上の結果、当中間会計期間における、Buddycom利用料売上が409,602千円（前年同期比35.8%増）、アクセサリ売上が318,151千円（前年同期比24.6%増）となり、セグメント売上高は727,754千円（前年同期比30.7%増）、セグメント利益は31,281千円（前年同期セグメント損失17,693千円）となりました。

※1 SMB：Small and Medium-sized Businessの略称。当社では従業員数が500人未満の企業と定義。

※2 ARR：Annual Recurring Revenueの略称。各期末月のBuddycom利用料売上に12倍して算出。

（その他）

ALTIBASE事業を「その他」に含めております。ALTIBASE事業については、積極的には展開しない方針であり、当中間会計期間におけるその他の売上高は1,400千円（前年同期比49.1%減）となり、セグメント利益は1,188千円（前年同期比47.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ904,818千円増加し、1,858,277千円となりました。

これは主に、現金及び預金の増加(前事業年度末比885,485千円増)、前払費用の増加(前事業年度末比17,370千円増)等によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ92,337千円増加し、569,230千円となりました。

これは主に、未払金の減少(前事業年度末比14,481千円減)、長期借入金の減少(前事業年度末比6,498千円減)、一年以内返済予定長期借入金の減少(前事業年度末比4,398千円減)等はありませんでしたが、売上高が順調に推移したことによる前受収益の増加(前事業年度末比64,301千円増)、買掛金の増加(前事業年度末比42,686千円増)、未払法人税等の増加(前事業年度末比12,000千円増)等によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産につきましては、前事業年度末に比べ812,480千円増加し、1,289,046千円となりました。

これは、新株式の発行による資本金の増加(前事業年度末比398,772千円増)、資本準備金の増加(前事業年度末比398,772千円増)、中間純利益計上による利益剰余金の増加(前事業年度末比14,947千円増)等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、1,442,830千円(前事業年度末比885,485千円増)となりました。また、当中間会計期間末における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において営業活動により獲得した資金は、133,474千円(前年同期は8,933千円の支出)となりました。

これは主に、前受収益の増加額65,681千円、税引前中間純利益17,439千円等の収入要因及び、売上債権の増加額11,636千円、未払消費税等の減少額1,878千円等の支出要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において投資活動により支出した資金は、4,293千円(前年同期は26,257千円の支出)となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出3,573千円、敷金の差入による支出720千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において財務活動により得られた資金は、756,300千円(前年同期は99,920千円の収入)となりました。

これは、株式の発行による収入767,208千円及び長期借入金の返済による支出10,896千円等によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年8月期の通期業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、本日（2025年4月14日）業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当中間会計期間 (2025年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	562,344	1,447,830
売掛金	101,368	113,004
商品	65,492	61,459
貯蔵品	7	16
その他	23,277	40,695
流動資産合計	752,490	1,663,006
固定資産		
有形固定資産	108,718	102,644
投資その他の資産	92,249	92,626
固定資産合計	200,968	195,271
資産合計	953,458	1,858,277
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,302	49,989
1年内返済予定の長期借入金	48,933	44,535
未払法人税等	530	12,530
前受収益	222,903	287,204
その他	94,122	79,333
流動負債合計	373,791	473,593
固定負債		
資産除去債務	45,749	45,899
長期借入金	40,091	33,593
その他	17,261	16,144
固定負債合計	103,101	95,637
負債合計	476,892	569,230
純資産の部		
株主資本		
資本金	52,121	450,894
資本剰余金	781,951	1,180,724
利益剰余金	△353,756	△338,809
自己株式	△3,750	△3,761
株主資本合計	476,565	1,289,046
純資産合計	476,565	1,289,046
負債純資産合計	953,458	1,858,277

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
売上高	559,707	729,154
売上原価	268,702	284,099
売上総利益	291,004	445,054
販売費及び一般管理費	306,442	412,583
営業利益又は営業損失(△)	△15,437	32,470
営業外収益		
受取利息	3	513
補助金収入	40	—
その他	6	95
営業外収益合計	49	609
営業外費用		
株式交付費	—	14,011
支払利息	785	800
為替差損	815	750
その他	0	77
営業外費用合計	1,601	15,640
経常利益又は経常損失(△)	△16,988	17,439
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△16,988	17,439
法人税、住民税及び事業税	145	4,988
法人税等調整額	△1,102	△2,496
法人税等合計	△957	2,492
中間純利益又は中間純損失(△)	△16,031	14,947

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△16,988	17,439
減価償却費	6,718	7,239
受取利息及び受取配当金	△3	△513
補助金収入	△40	—
支払利息	785	800
株式交付費	—	14,011
売上債権の増減額(△は増加)	△17,010	△11,636
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,754	4,023
前払費用の増減額(△は増加)	△9,809	△782
仕入債務の増減額(△は減少)	△6,408	42,686
未払金の増減額(△は減少)	△6,775	△12,074
未払費用の増減額(△は減少)	△10,377	2,401
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	—	7,497
前受収益の増減額(△は減少)	40,994	65,681
未払消費税等の増減額(△は減少)	9,917	△1,878
その他	△565	△650
小計	△7,808	134,246
利息及び配当金の受取額	3	513
補助金の受取額	40	—
利息の支払額	△877	△799
法人税等の支払額	△290	△485
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,933	133,474
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△44,906	△3,573
資産除去債務の履行による支出	△7,530	—
敷金の差入による支出	—	△720
敷金の回収による収入	26,178	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,257	△4,293
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	109,000	—
長期借入金の返済による支出	△9,080	△10,896
株式の発行による収入	—	767,208
自己株式の取得による支出	—	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	99,920	756,300
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	64,729	885,485
現金及び現金同等物の期首残高	499,759	557,344
現金及び現金同等物の中間期末残高	564,489	1,442,830

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

当社は、2024年10月31日付で、楽天グループ株式会社及び株式会社JVCケンウッドから第三者割当増資の払い込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ390,610千円増加しております。

また、2024年12月16日開催の取締役会決議に基づき、当社取締役に対する譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行を行い、資本金及び資本準備金がそれぞれ8,162千円増加しております。

この結果、当中間会計期間末において資本金が450,894千円、資本剰余金が1,180,724千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額	中間損益 計算書計上 額(注) 2
	Buddycom 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	556,959	556,959	2,748	559,707	—	559,707
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	556,959	556,959	2,748	559,707	—	559,707
セグメント利益又は損失(△)	△17,693	△17,693	2,255	△15,437	—	△15,437

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額	中間損益 計算書計上 額(注) 2
	Buddycom 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	727,754	727,754	1,400	729,154	—	729,154
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	727,754	727,754	1,400	729,154	—	729,154
セグメント利益	31,281	31,281	1,188	32,470	—	32,470

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間会計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

(単位: 千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	Buddycom事業	計		
Buddycom利用料売上	301,598	301,598	—	301,598
アクセサリ売上	255,360	255,360	—	255,360
その他	—	—	2,748	2,748
顧客との契約から生じる収益	556,959	556,959	2,748	559,707
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	556,959	556,959	2,748	559,707

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当中間会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

(単位: 千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	Buddycom事業	計		
Buddycom利用料売上	409,602	409,602	—	409,602
アクセサリ売上	318,151	318,151	—	318,151
その他	—	—	1,400	1,400
顧客との契約から生じる収益	727,754	727,754	1,400	729,154
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	727,754	727,754	1,400	729,154

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ALTIBASE事業であります。